



さあ、答え合わせをしよう！

vol.44 奈良時代(ならじだい)②

※ココを見てね! ▶調べてみよう～奈良時代(ならじだい)

1. 平城京(へいじょうきょう)は、碁盤(ごばん)の目のようにタテとヨコにまっすぐな道路が通っていました。南北・タテ方向の道路を何といいましたか？

正解:②坊(ぼう)

さて、どこに答えがあったか、わかるかな？ 正解は、②「坊(ぼう)」。奈良時代(ならじだい)の2つ目「大都市・平城京(へいじょうきょう)での人々の暮(く)らし」の中に書かれていました。これに対し、東西・ヨコ方向の道路のことを「条(じょう)」と言いました。そして、「京(きょう)」とは、都(みやこ)をさし、平安京(へいあんきょう)は、いまの京都市内(きょうとしない)にあたります。都(みやこ)には帝(みかど)が住んでいました。つまり、国の中心となる所で、現代(げんだい)で言うと、皇居(こうきょ)のある東京(とうきょう)がそれにあたります。

2. 平城京(へいじょうきょう)は、次のうち、どこの「都市(とし)」を お手本にしてつくられましたか？

正解:③長安城(ちょうあんじょう)

もっと知りたい奈良時代(ならじだい)の1つ目、タイトルを見れば③長安城(ちょうあんじょう)だとわかります。ただし、当時、唐(とう/618年～907年 ※いまの中国)にあった長安城(ちょうあんじょう)は とても大きく、人口約100万人の大都市(だいとし)として、日本だけでなく、東アジアの都市づくりにも大きな影響(えいきょう)を与(あた)えました。もとは盆地(ぼんち)の田舎(いなか)でしたが、300年間にわたって首都(しゅと)となり、国際都市(こくさいとし)として栄(さか)えました。

3. 奈良時代(ならじだい)に使われた、漢字(かんじ)一文字に一つの音をあてる仮名使(かなづか)いのことを何といいますか？

正解:③万葉仮名(まんようがな)

人類(じんるい)は700万年前に誕生(たんじょう)していますが、文字を使いはじめたのは5300年前から。飛鳥時代(あすかじだい)や奈良時代(ならじだい)には、まだ「平仮名(ひらがな)」や片仮名(かたかな)はありませんでした。では、奈良時代(ならじだい)にはどんな文字があったのでしょうか？ それは、漢字(かんじ)一文字に一つの音をあてる、③「万葉仮名(まんようがな)」という文字で、歌木簡(うたもっかん)が出土(しゅつど)したことでわかりました。現代(げんだい)の日本では、漢字(かんじ)・ひらがな・カタカナの3種類を使い分けていますが、外国の人から見ると、いくつもの文字を使い分けている日本語は、おもしろいようですね。